

常置委員会・分科会の活動計画・報告

学術研修分科会

委員長

駒橋 徹

日本精神科病院協会雑誌 別刷
2024 Vol. 43 No. 1

学術研修分科会

委員長 駒橋 徹

担当副会長	伴 亨(岩手・平和台病院)
担当常務理事	相澤 明憲(熊本・弓削病院)
担 当 理 事	遠藤 謙二(長野・千曲荘病院)
委 員 長	駒橋 徹(栃木・鹿沼病院)
構 成 員	安田 重(宮城・安田病院)
同	藤枝 信夫(秋田・清和病院)
同	鶴岡 義明(千葉・大多喜病院)
同	武田龍太郎(神奈川・武田病院)
同	飯島 徳哲(愛知・矢作川病院)
同	岩田 宗久(愛知・精治寮病院)
同	川村 憲市(三重・鈴鹿さくら病院)
同	青野 将知(徳島・城南病院)
同	三船 義博(香川・三船病院)
同	須藤 康彦(高知・土佐病院)
同	涌波 淳子(沖縄・北中城若松病院)

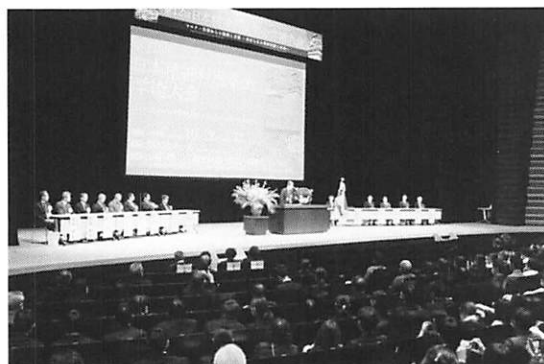
はじめに

私は令和元年7月から学術研修分科会の構成員となり、令和5年で4年目に入った。そして令和5年の7月から委員長を拝命している。この4年間に学術研修分科会で経験したことを報告する。

4年間の経過とオンライン研修会

構成員に就任した令和元年の11月、初任務として徳島県支部が主催してくださった事務部門の学術教育研修会に参加した。前日夕方に徳島市に入り、山崎会長とともに徳島県支部の会員の先生方とおいしい食事をいただいた。風邪のため咳が止まらず、翌日に支部長の鈴木和人先生が風邪薬を持参してくださった。ありがたかった。懇親会ではおいしいお酒をいただきながら、皆で会場の壁に沿って大きな輪をつくり阿波踊りを踊った。懐かしい思い出である。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のために日本精神科医学会学術大会（以下、学術大会）、部門別の学術教育研修会、認知行動療法研修会などすべてを中止とし、「令和3年度からの研修会をどうするか?」についてオンラインで協議した。各支部がそれぞれオンライン研修会を開



催できる業者と契約すると費用がかさむので、日精協事務局が Zoom ウェビナーのホストをすることはできないか? というように話が進んだ。私は Zoom ウェビナーのホスト業務にすごく興味を持っていたので、有償のウェビナー研修会を受講しその資料等を事務局員と共有した。また自治医科大学精神医学講座で、医局員主導で Zoom ウェビナーを使って日本精神病理学会を開催すると伺い、令和2年10月16日の学会当日、裏方の Zoom ウェビナーホスト操作を見学させていただいた。その結果、日精協事務局で運営できるのではないかと委員会で報告し、令和3年度の心理部門は日精協事務局が Zoom ウェビナーのホストを務めて開催された。ところがその方法がほかの部門の開催には継承されなかった。主催する各支部が数ヵ月単位で Zoom ウェビナー契約をすればよいだけなのにといいとも残念だった。いずれにせよ、令和3年度と令和4年度はすべての部門別研修会が2日から1日に短縮しオンラインで開催された。そして令和5年度からは再び実地対面の講演会に戻して開催されている。表1に最近の開催方法別参加者数を示した。

私が所属する栃木県支部は令和3年度に看護部門の学術教育研修会を主催した。私は前述した自分の経験を伝えて自前での Zoom ウェビナー運営

常置委員会・分科会の活動計画・報告

を提案したが、万が一つつながらないと困るからという理由で却下され業者委託となった。必要経費を集めなければならないという理由もあり、全国の知合いの院長先生方に職員の参加を依頼し、事前に全都道府県から参加者登録を得た。しかし、新型コロナウイルス感染症クラスター発生等のために何名かの方は当日欠席されたが、合計466名の参加者を得た。

構成員の職務内容

構成員には大きく二つの任務がある。一つは、各地区主催の学術教育研修会や認知行動療法研修会に原則2名で参加して、研修会の内容を要約した文書を作成し、それを日精協誌へ寄稿することである。もう一つは、学術大会で一般演題の学会長賞と奨励賞を選出することである。選出には、①創意工夫が見られること、②内容が分かりやすく示されていること、③発展性、継続性が評価できるもの、④医療への寄与度が高いもの、という基準がある。各構成員が自分に割り振られた一般演題発表を聞き、前述の基準にあった演題を選出し、その日の夕方に行われる委員会で報告し、その中からより優れたものを選んでいくという方法を取る。令和3年度の学術大会はハイブリッドで行われたため、発表動画を見た後に話し合いをするという方法を取った。

令和5年度の研修について

表2にあるように、令和5年11月20日現在ま

で5月と11月に認知行動療法研修会、6月に栄養士部門（日精協）、9月に看護部門（岐阜県）とPSW部門（宮崎県）、10月に学術大会（熊本県）、11月に事務部門（山口県）と作業療法士部門（香川県）と順調に開催されている。10月の学術大会（熊本県）では998名の方に参加していただき、学会長賞には、社会医療法人ましき会・益城病院の伊豆丸聖乃先生（ピンチをチャンスに！チェンジ！チャレンジ！洗濯～現代に見合ったB型事業所の土台作り～）を選んだ。また、奨励賞には、医療法人社団山崎会・サンピエール病院の吉澤さおり先生（精神疾患を抱えた患者への音楽を用いた手洗いの取組み）、医療法人社団三交会・三交病院の井上祐弥先生（ディエスカレーションに関する自主製作アニメーションの効果）、そして学校法人昭和大学・昭和大学附属烏山病院の安藤睦実先生（精神科病院のスタッフが身体科病院へ～架け橋モデル～）を選ばせていただいた。

最後に

毎年度、全国の会員病院の皆様方にご協力いただき各種研修会を開催している。これから令和7年度の開催県を決めていくところである。委員長が各県の支部長に連絡を取り、開催を依頼するというをつい先日知らされた。私から各県の支部長に連絡をさせていただくので、開催に向けてご協力をお願いしたい。

表1 学術教育研修会部門別開催実績（参加者数）

コース	平成30年度 (2018)	平成31/令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和5年度 (2023)
事務	353	266	中止	146	162	Zoomで1日のみ開催
看護	172	277		466	216	
薬剤師	161	255		81	61	
栄養士	131	125		209	115	
作業療法士	114	84		165	90	
PSW	251	331		111	151	
心理				210	131	
認知行動療法研修会	116	68	中止	中止	42	52
		51			43	
合計	1,298	1,457	0	1,388	1,011	286

日本精神科医学会 学術大会	1,235 北信越地区 (長野県)	1,448 北海道地区 (北海道)	中止 近畿地区 (大阪府)	540 関東地区 (神奈川県)	775 東海地区 (静岡県)	998 九州地区 (熊本県)
---------------	-------------------------	-------------------------	---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------

現地開催と後日配信あり

表2 日本精神科医学会 令和5（2023）年度学術教育研修会・学術大会

部 門	開催地	実施年月日	会 場
栄養士部門	学術研修分科会（日精協）	令和5年6月3日（土）～4日（日）	川崎日航ホテル
看護部門	岐阜県	令和5年9月14日（木）～15日（金）	岐阜グランドホテル
PSW部門	宮崎県	令和5年9月28日（木）～29日（金）	シーガイアコンベンションセンター
事務部門	山口県	令和5年11月16日（木）～17日（金）	かめ福オンプレイス
作業療法士部門	香川県	令和5年11月30日（木）～12月1日（金）	オークラホテル丸亀
心理部門	沖縄県	令和5年12月21日（木）～22日（金）	パシフィックホテル沖縄
薬剤師部門	山梨県	令和6年1月13日（土）～14日（日）	山梨県立図書館
認知行動療法研修会（20・21回）		令和5年5月11日（木）～12日（金）	川崎日航ホテル
		令和5年11月9日（木）～10日（金）	川崎日航ホテル
第12回 日本精神科医学会 学術大会	九州地区	令和5年10月12日（木）～13日（金）	熊本城ホール